

多様な視点×減災対策

～すべての男女が自分らしく生きることのできるまちをめざして～

■ topics

- 1 特集:誰もが安心できる避難所運営を考える
- 2 新たな吉川市男女共同参画基本計画“よしかわパートナーシップアクション”が始まります
- 3 吉川市パートナーシップ宣誓制度



特集 | 誰もが安心できる避難所運営を考える

新型コロナウイルス感染症の影響によって、多くの市民が集まるイベントの開催が困難な中、令和3年度は「多様な視点×減災対策」をテーマとして啓発イベントを4日間開催し、吉川市女性減災リーダー*をはじめとする減災・防災対策に関心の高い17名が参加して、「誰もが安心できる避難所運営」について一緒に考えました。

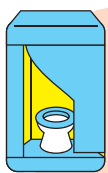
1日目

講座

…… 誰もが安心できる避難所とは
～多様な視点×男女共同参画での避難所づくり～

災害は、地震や水害などの自然現象と、それを受け止める側の社会のあり方によってその被害の大きさが変わると考えられています。

これまでの避難所では、不潔で数が足りないトイレ、冷たい食事、床での雑魚寝という場合が多く、このストレスによって災害関連死**につながるケースがありました。避難所での災害関連死や生活にかかる負担を軽減させるためには、良好な生活環境を確保するための**T(トイレ)K(キッチン)B(ベッド)**の改善が不可欠です。



T

清潔で
十分な数の
トイレ

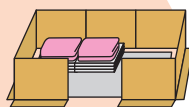
K

栄養バランスを考えた
温かい食事



B

低体温を防ぐ
簡易ベッドなどの
整備



講師 浅野 富美枝さん

吉川市在住。
宮城学院女子大学生生活環境科学研究所 研究員。
市の防災会議委員や男女共同参画審議会会長などを務める。

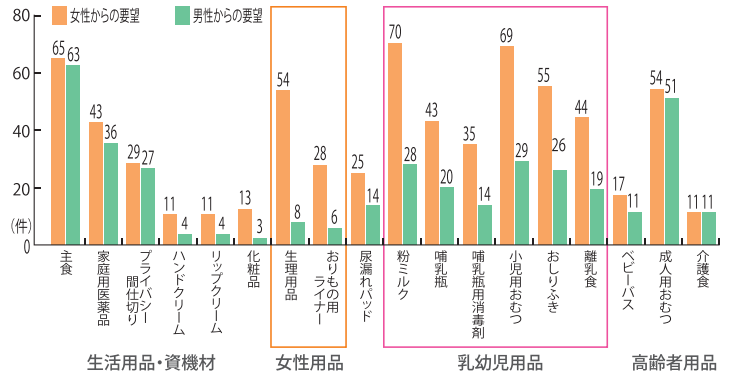
*吉川市女性減災リーダー：平成31年に開催した吉川市女性減災リーダー育成セミナーの修了者。

**災害関連死：災害による直接の被害ではなく、避難途中や避難後、避難生活等が原因で亡くなること。

○男性と女性で異なる災害時のニーズ

東日本大震災時、女性用品や乳幼児用品など女性からニーズが多くありました。

長引く避難所生活において、女性が着替えや授乳の場所に困ったり下着や生理用品が不足したりするなどの問題があり、防災対策においては男女のニーズの違いへの配慮が求められています。



2日目

グループワーク

誰もが安心できる避難所を考えよう

「誰もが安心できる避難所」に必要なT(トイレ)K(キッチン)B(ベッド)をテーマに、各5~6人のグループで「課題や問題」「解決策」についてグループワークを行いました。



「トイレ」「キッチン」「ベッド」どのグループも活発な意見交換が行われました。



各グループの発表



防災資機材の見学



3日目

減災訓練に参加

地域の減災訓練(中曽根小6自治会合同減災プロジェクトX)に参加し、トイレや簡易ベッドなどの防災資機材の組み立て体験や、防災倉庫の確認を行いました。





○多様な視点を理解するために、多様な立場の人の参画を ～黄金の3割理論～

“黄金の3割”理論とは「組織の中で少数派が3割入ると組織文化に大きな変革を引き起こすことができる」という米社会学者ロザベス・モス・カンターの理論です。

男性が主体になりがちな自治会活動や地域防災活動にも、女性や外国人など多様な立場の人々が3割以上参画することで、これまで気づけなかった問題やニーズなどの多様な視点を理解することができます。



4日目 提案書を提出

今回の参加者からの意見を「意見提案」としてまとめ、市危機管理課長へ、直接お渡ししました。

また、現在、旭地区センターの避難所開設・運営マニュアル※策定に関わっている拾巻軒自治会長にもご参加いただき、参加者とともに意見交換を行いました。



吉川市市民生活部危機管理課長 様

このたび、減災に関心の高い市民が参加し、「誰もが安心できる避難所」のために、今、私たちができることについて、男女共同参画の視点で考える機会として、講座やグループワークを行いました。現在、市がすすめている「避難所開設・運営マニュアル」の策定支援に関し、次の項目についてご検討いただきました(複案いたします)。

1. 居住スペース・食について

- 1) 女性の着替えや授乳場所はできるだけフロアが違う場所が好ましいです。また、避難所生活が長期化する場合は、キッズスペースの配置が必要です。
- 2) 避難所生活が長期化した場合、個々のスタイルの違いから音や照明が問題になります。予め消灯や就寝時間などのルールを作ることが必要ですが、授乳や受験勉強、仕事からの帰宅時間が遅い人など多様性に配慮したスペースの確保などの対応も必要です。
- 3) 避難所生活でできるだけ温かい食事ができるように、カセットコンロの持ち寄りや、平時から「サバイバル飯づくり体験」などの工夫や取り組みが必要です。

2. トイレについて

- 1) トイレペーパーのほか、生理用品や紙オムツ、汚物を入れるポリ袋は十分な数量を備えること。
- 2) トイレを清潔に保つために、汚物が入ったポリ袋の置き場を予め配置すること。
- 3) 避難所生活が長期化した場合は、停電している場合、夜間の屋外トイレの利用は非常に暗く、女性や子どもが一人でトイレを利用するにあたっては事故や犯罪等の危険にあいやすいため、設置場所や明るさの確保、見守り体制など、安全に利用できる工夫が必要です。

3. 多様な市民が参画できるしくみづくりについて

- 1) 避難所運営には、多くの人の参画が欠かせません。避難者が支援を受けるだけでなく、避難者同士で助け合う意識づくり、しくみづくりについて、平時から取り組む必要があります。
- 2) 女性減災リーダーをはじめ、地域には減災対策に関心を持つ女性がいます。自治会だけではなく、多様な人が地域の防災活動に関わることを希望します。

令和3年 12月 4日

令和3年度吉川市男女共同参画啓発事業
「誰もが安心できる避難所運営を考える」参加者一同



みんなと一緒に
考える減災対策を
土屋 真智子さん

私自身、防災・減災への意識を維持するため、また、いざという時に自分にできることが少しでも増えればとの思いで参加しました。

「私自身高齢のため、避難するときは要配慮者になってしまうかもしれませんが、避難所では支援者として何が役に立てることがあるかもしれない。だから、今回参加しました。」「外国人も言葉がわかれば支援者になれる」というような話をしてくださった参加者がいて、すごく心に響きました。そんな方々が一緒になって、自治会の中で減災について考えることができるといいですね。

※避難所開設・運営マニュアル：有事の際、避難者自らが円滑に避難所を開設し、運営できるように、取組方法を示したマニュアル。市では避難所ごとにマニュアルを整備することを目指している。

2.新たな吉川市男女共同参画基本計画

“よしかわパートナーシップアクション”が始まります。

現在の第3次吉川市男女共同参画基本計画の計画期間が令和4年3月をもって満了するため、計画の見直しを行い、今後10年間の新たな計画を策定しました。



計画期間 令和4年4月から令和14年3月までの10年間

基本理念 ～多様性を認め合い 誰もが自分らしく生きることができるまち～

基本目標Ⅰ ジェンダー平等の意識づくり

互いの人権尊重とジェンダー平等の意識づくりを促し、その定着と浸透に取り組みます。

基本目標Ⅱ 配偶者等に対するあらゆる暴力のない社会づくり

配偶者や恋人に対するあらゆる暴力を容認しない社会風土を醸成するため、DV防止や相談支援体制、被害者の保護・自立に向けて組織横断的に取り組みます。

基本目標Ⅲ 安心して暮らせる環境づくり

誰もがいきいきと安心して暮らせるよう、多様な性のありようや年代に応じた心と身体の健康を理解し、地域社会全体で支え合う子育てや介護支援に取り組むとともに、災害による被害や困難を最小限にするために、多様性に配慮した視点に立った減災対策に取り組みます。

基本目標Ⅳ 誰もが活躍できる社会づくり

あらゆる分野において、誰もが個性と能力を十分に発揮できるよう、意思決定の過程における女性の参画を促進するとともに、職業生活において性別に関わらず誰もが活躍できる環境づくりに取り組みます。

3.吉川市パートナーシップ宣誓制度

～令和4年2月1日スタート～



お互いを人生のパートナーとする2人が、日常生活において相互に協力し合うことを約束した“パートナーシップ”の関係であることを、市に宣誓し、市が証明書類を交付する制度『吉川市パートナーシップ宣誓制度』が始まりました。

この制度によって、性的指向又は性自認に係る性的少数者の生きづらさや困難を軽減するとともに、この制度の理解が進み、パートナーシップの関係が尊重される取り組みが広がっていくことを期待しています。

宣誓を行う際には、住民票の写しや婚姻していないことを証明する書類などが必要です。
宣誓書類や利用の手引きは市ホームページをご覧ください。



発行/吉川市 | 2022年3月発行

お問合せ/市民参加推進課 男女共同参画・文化交流担当

〒342-8501 吉川市きよみ野1-1 電話:048-982-9685 FAX:048-981-5392

メール:shiminsanka2@city.yoshikawa.saitama.jp